

**令和4年度成長型中小企業等研究開発支援事業
(中小企業等向け研究開発支援事業における効果的な情報発信、事業化支援に関する事業)**

報告書

2023年2月

株式会社 **ピコ・ナレッジ**

1. 本事業の実施概要

2. 事業の実施内容

I. サイトの改修

II. 令和3年度事業終了分の事例集（事例データ）の作成

III. 掲載データの更新

IV. サイトへのデータ反映

V. 基本設計書等の作成

VI. 来年度以降のサイトの在り方検討

3. 今後の取り組むべき課題・方向性

- ・本事業において、下記の事業内容を実施いたしました。

<Ⅰ. サイトの改修>

- ・サポイン事業からGo-Tech事業への名称変更、および制度内容変更に伴うサイト改修

<Ⅱ. 令和3年度事業終了分の事例集（事例データ）の作成>

- ・令和3年度に終了した130件のサポインプロジェクト情報データの作成

<Ⅲ. 掲載データの更新>

- ・サイトに登録済みのプロジェクトの事業化状況を更新

<Ⅳ. サイトへのデータ反映>

- ・テストサイト用のサーバ手配
- ・確認用テストサイトの構築
- ・中小企業庁における本番サイトへのデータ反映

<Ⅴ. 基本設計書等の作成>

- ・本システムの設計書、各種テスト実施計画書及び結果報告書、操作マニュアルを作成

<Ⅵ. 来年度以降のサイトの在り方検討>

- ・Go-techナビと同様の趣旨でサイトを運営しているビジネスマッチングサイトの調査
- ・別サイトとの統合の調査・検討
- ・別サイトとの統合以外の方法で効果的な情報発信の調査・検討

1 事業の実施内容 I.サイトの改修

■ サイトロゴ・メインビジュアルの更新

- ・ サイトロゴ・メインビジュアルを下記内容で更新しました。

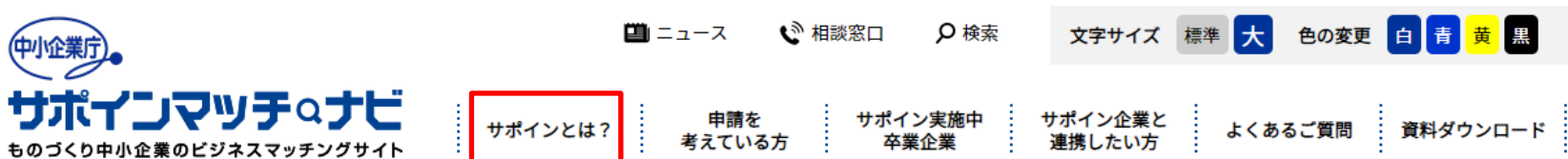


2 事業の実施内容 I.サイトの改修

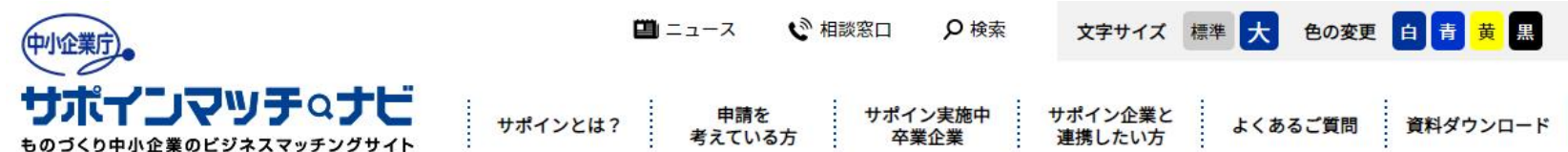
■グローバルメニュー等共通箇所

・グローバルメニュー等、全ページ共通箇所について、下記内容で修正いたしました。

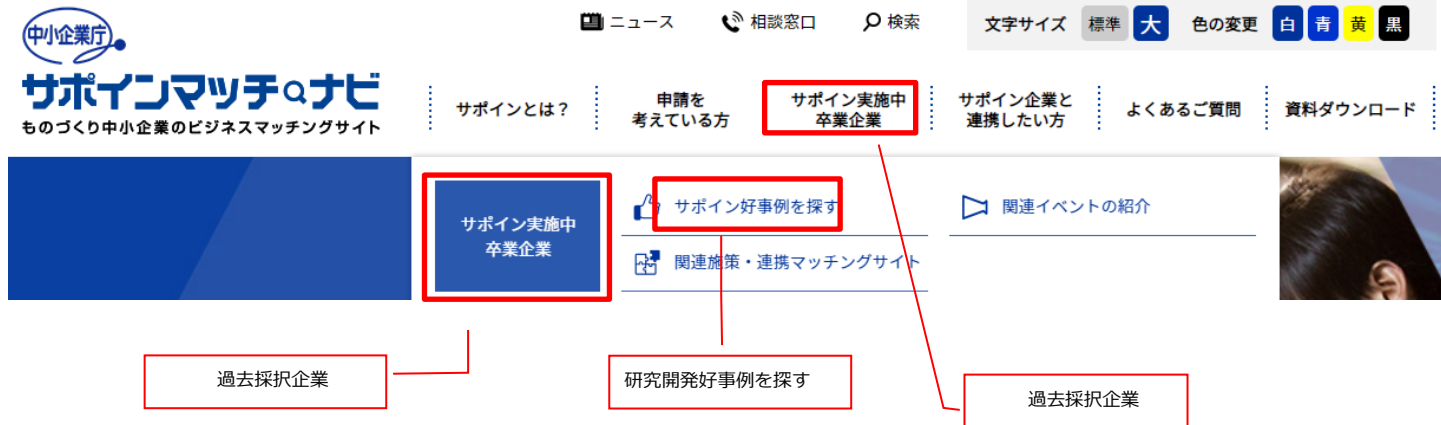
(1) グローバルメニュー



Go-Tech事業とは



Go-Tech事業への申請をご検討の方へ



(2) フッター

(TEL) 03-3501-1816
(FAX) 03-3501-7170

中小企業庁 経営支援部
技術・経営革新課

〒110-8912 東京都千代田区霞が関一丁目3番1号
(TEL)03-3501-1763 (FAX)03-3501-7099

サポインとは？

- > サポイン事業の実績（採択状況を見る）
- > サポイン事業の実績（事業化状況を見る）

サポイン申請をご検討の方へ

申請手続き案内

事業管理機関を探す

研究実施機関を探す

NEWS

サポイン技術を探す

サポイン好事例を探す

関連イベントの紹介

関連施策・連携マッチングサイトの紹介

よくあるご質問

資料ダウンロード

プライバシーポリシー 

利用規約 

Copyright 2019,The Small and Medium Enterprise Agency,All Rights Reserved.

Go-Tech事業とは？

- > 事業の実績（採択状況を見る）
 - > 事業の実績（事業化状況を見る）
- Go-Tech事業への申請をご検討の方へ

研究開発された技術を探す
研究開発好事例を探す

■各ページの修正対象箇所

・各ページについて、下記内容で修正いたしました。

(1) トップページ <https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php>



現在の技術登録数

研究開発された技術を探す



WHAT'S Go-Tech

Go-Tech事業とは？

Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）とは、中小企業が大学・公設試等の研究機関等と連携して行う研究開発、試作品開発及び販路開拓への取組を最大3年間支援する事業です。

中小企業の特定期間ものづくり基盤技術及びサービスの高度化等に関する指針



Go-Tech事業への申請をご検討の方へ
過去採択企業
過去採択企業と連携したい方

Go-Tech事業とは？



研究開発好事例を探す



Go-Tech事業とは？
研究開発された技術を探す
研究開発事例を探す



TECHNOLOGY

注目のサイボイン技術

注目の技術

サイボイン技術を探す

研究開発された技術を探す

CASES

サイボイン好事例

研究開発好事例

サイボインで開発した技術が事業化し売上アップに繋がった。等の成功事例を紹介しています。

開発した技術が事業化し売上アップに繋がった、等の成功事例を紹介しています。



好事例一覧へ

中小企業向け 経営支援部

技術・経営支援部

〒113-0033 東京都文京区湯島一丁目1番1号

TEL:03-3931-1133 FAX:03-3931-7999

サイボインとは?

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

サイボイン技術の概要 (技術開発支援)

Copyright 2013 The Small and Medium Enterprise Agency All Rights Reserved.

(2) サポインとは？

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/about/>

削除

Go-Tech事業とは？

サポインとは？

トップ > サポインとは？

サポインとは？

サポイン Supporting Industry

中小企業の研究開発・試作品開発などを支援する事業

Go-Tech事業

サポイン（戦略的基盤技術高度化支援事業）は「Supporting Industry」の略で、中小企業・小規模事業者が大学や公設試験研究機関、他の企業などと共同で我が国産業を支えるものづくり基盤技術の高度化に向けた研究開発や試作品開発、販路開拓などの取組を支援するものです。最大3年間、合計で9,750万円の補助金を受けることができます。

サポインでは、日本のものづくりの「競争力強化」と「新たな事業の創出」を目指しており、これまで2,000件を超える中小企業・小規模事業者による研究開発プロジェクトを支援しています。

Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）とは、中小企業が大学・公設試等の研究機関等と連携して行う研究開発、試作品開発及び販路開拓への取組を最大3年間支援する事業です。

※商業・サービス競争力強化連携支援事業（サビサ事業）、戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）については、令和4年度より「Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）」に統合されることとなりました

「狭き門」を通った、選ばれた技術

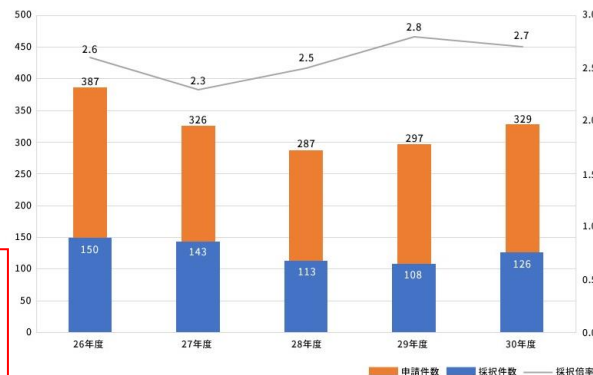
サポインの支援を受けるには、取り組もうとする詳細な研究開発の計画を立て、申請を行い、審査の結果、採択されると支援が受けられます。つまり、サポイン事業に採択された研究開発は、「狭き門を通った、選ばれた事業」ということになります。

現に、サポインの採択を受けた企業は川下企業の生産性や品質の工場、コストの低減など企業の競争力の工場に活かせる技術や製品などの成果が出ています。

サポインの実績

Go-tech事業
（旧サポイン事業）の実績

これまでの年度別採択状況



これまでの支援実績

※平成26年度以前のデータは下記資料をご覧ください。

「これまでの戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）・支援実績」

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/files/download/file/18/491>

さらに詳しく見る >



(3) サポインとは? > サポイン事業の実績 (採択状況を見る・事業化状況を見る)

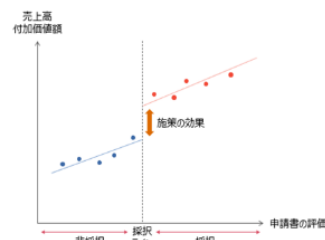
<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/about/saitaku/>



サポイン事業の効果

Go-Tech事業 (旧サポイン事業) の効果

< 回帰分析デザインに基づく効果測定イメージ >



サポイン事業に採択された企業は6～8年後に売上高が約20億円、付加価値額が約3億円増加することを統計的に有意に確認。

※詳しくは「平成29年度戦略的基礎技術高度化支援事業の効果測定に関する調査事業報告書」をご覧ください。

<https://www.meti.go.jp/medi/lib/report/1129FY/200372.pdf>

Go-Tech事業 (旧サポイン事業) に採択された企業は6～8年後に売上高が約20億円、付加価値額が約3億円増加することを統計的に有意に確認。

※各構成員が含まれるGo-Tech事業 (旧サポイン事業) の事業化率及び直近売上高を算出しております。

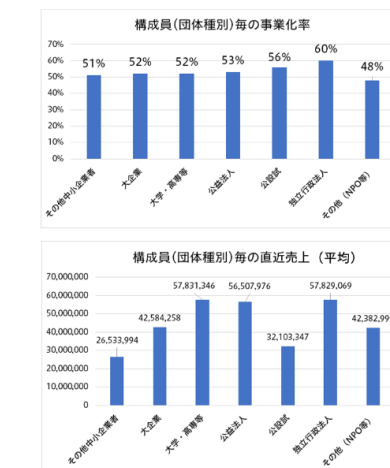
< Go-Tech事業 (旧サポイン事業) 終了後の事業化率及び直近売上 >

事業化の状況 (全体)

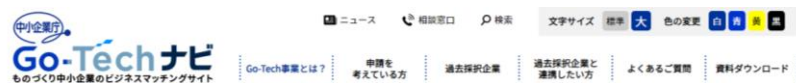
< サポイン事業終了後の事業化率及び直近売上 >



構成員 (団体種別) 毎の事業化状況



※各構成員が含まれるサポイン事業の事業化率及び直近売上高を算出しております。



<都道府県毎による事業化状況>



・北日本における事業化率が高い。
地域に根付いた産業に対して安定取引が確保しやすいと推察される

削除



・北日本における事業化率が高い。
地域に根付いた産業に対して安定取引が確保しやすいと推察される

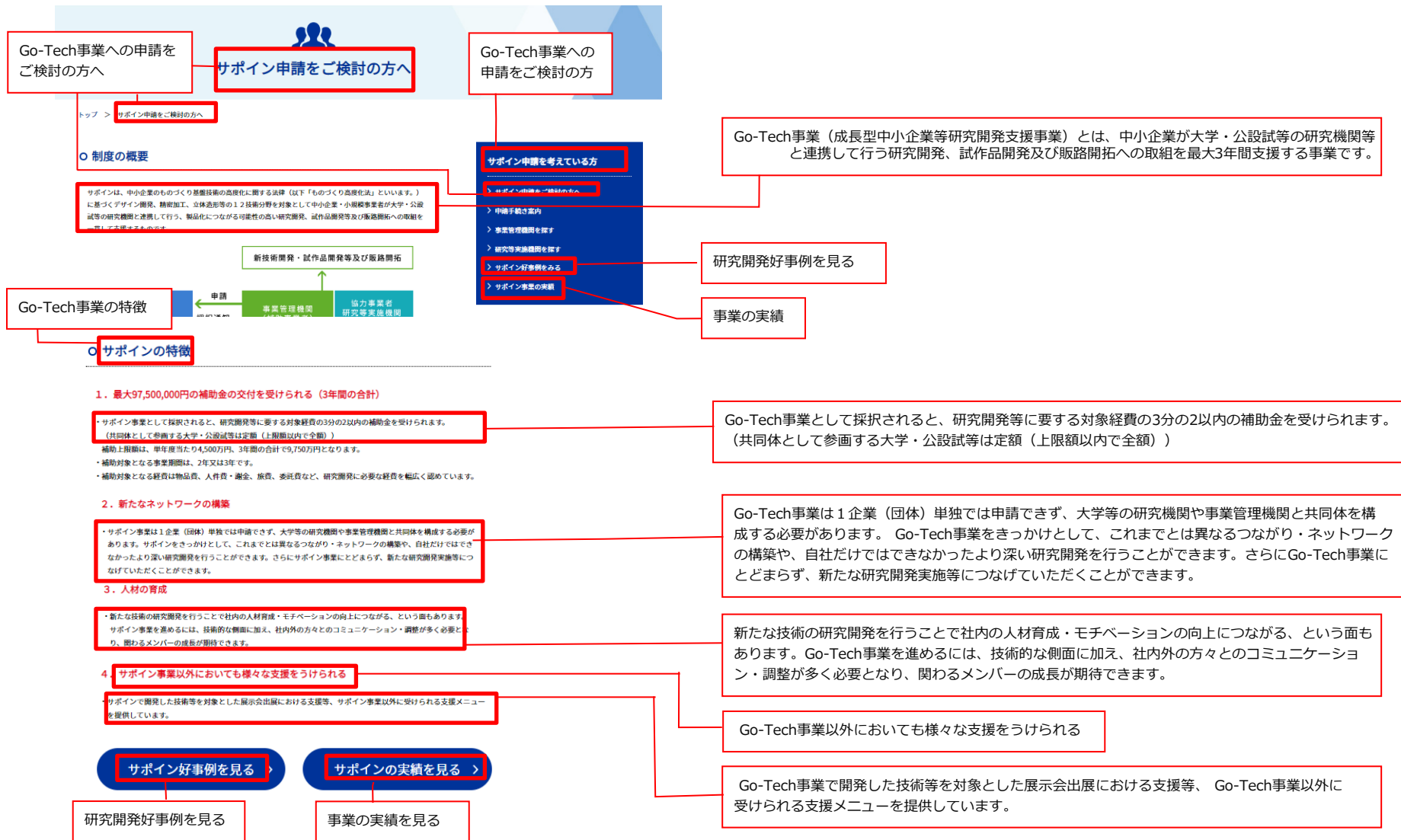


・中部地方における直近売上額が高い。
自動車産業を中心とした大きな産業に競合がひしめいており、事業化に至った場合には売り上げ拡大につながりやすいと推察される

削除

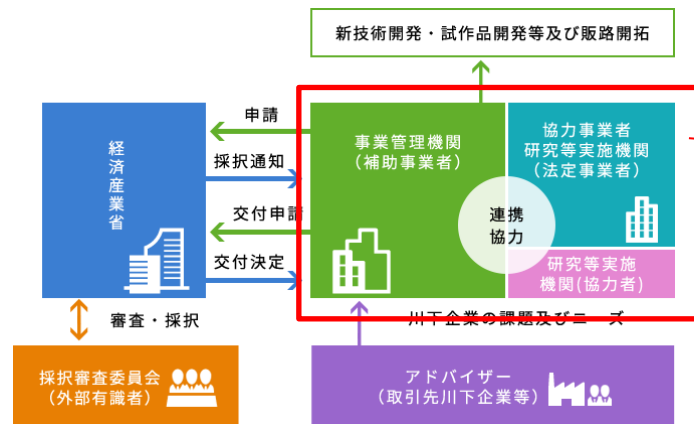
(4) サポイン申請をご検討の方へ

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/application/guide/>



(4) サポイン申請をご検討の方へ

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/application/guide/>



事業管理機関(補助事業者) → 「事業管理機関」 に修正
 協力事業者 研究等実施機関(法定事業者) → 「主たる研究等実施機関」に修正
 研究等実施機関(協力者) → 「従たる研究等実施機関」に修正

○ サポインの特徴

1. 最大97,500,000円の補助金の交付を受けられる(3年間の合計)

- ・サポイン事業として採択されると、研究開発等に要する対象経費の3分の2以内の補助金を受けられます。
 (共同体として参画する大学・公設試等は定額(上限額以内で全額))
 補助上限額は、単年度当たり4,500万円、3年間の合計で9,750万円となります。
- ・補助対象となる事業期間は、2年又は3年です。
- ・補助対象となる経費は物品費、人件費・謝金、旅費、委託費など、研究開発に必要な経費を幅広く認めています。

2. 新たなネットワークの構築

- ・サポイン事業は1企業(団体)単独では申請できず、大学等の研究機関や事業管理機関と共同体を構成する必要があります。サポイン事業をきっかけとして、これまでは異なるつながり・ネットワークの構築や、自社だけではできなかったより深い研究開発を行うことができます。さらにサポイン事業にとどまらず、新たな研究開発実施等につなげていただくことができます。

3. 人材の育成

- ・新たな技術の研究開発を行うことで社内の人材育成・モチベーションの向上につながる、という面もあります。サポイン事業を進めるには、技術的な側面に加え、社内外の方とのコミュニケーション・調整が多く必要となり、関係するメンバーの成長が期待できます。

4. サポイン事業以外にも様々な支援を受けられる

- ・サポインで開発した技術等を対象とした展示会出展における支援等、サポイン事業以外に受けられる支援メニューを提供しています。

1. 最大3年間支援を受けられる。

- ・サポイン事業として採択されると、研究開発等に要する対象経費の3分の2以内の補助金を受けられます。
 (共同体として参画する大学・公設試等は定額(上限額以内で全額))
- ・補助対象となる事業期間は、2年又は3年です。
- ・補助対象となる経費は物品費、人件費・謝金、旅費、委託費など、研究開発に必要な経費を幅広く認めています。

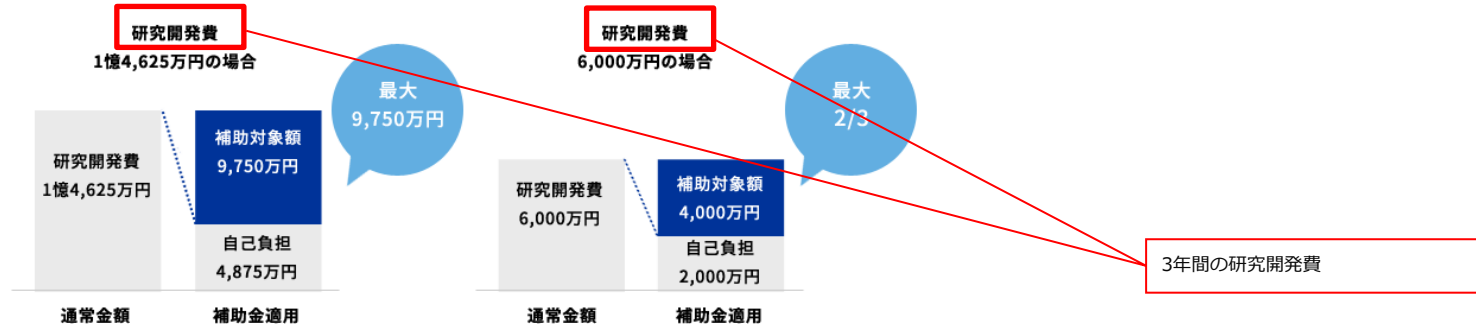
	通常枠	出資獲得枠
事業期間	最大3年間	
補助上限	単年度:4,500万円 3年間合計:9,750万円以内	単年度:1億円以下 3年度合計:3億円以下 但し、補助上限は、民間ファンド等の出資者が出資を予定している金額の2倍を上限とする。
補助率	中小企業者等:2/3以内 大学・公設試等:定額 ※一部定額上限あり、課税所得15億円超中小企業等は1/2以内	
補助対象経費	人件費・謝金、機械装置等の設備備品費、消耗品費、委託費等	

サポイン好事例を見る >

サポインの実績を見る >

補助上限の考え方

追記

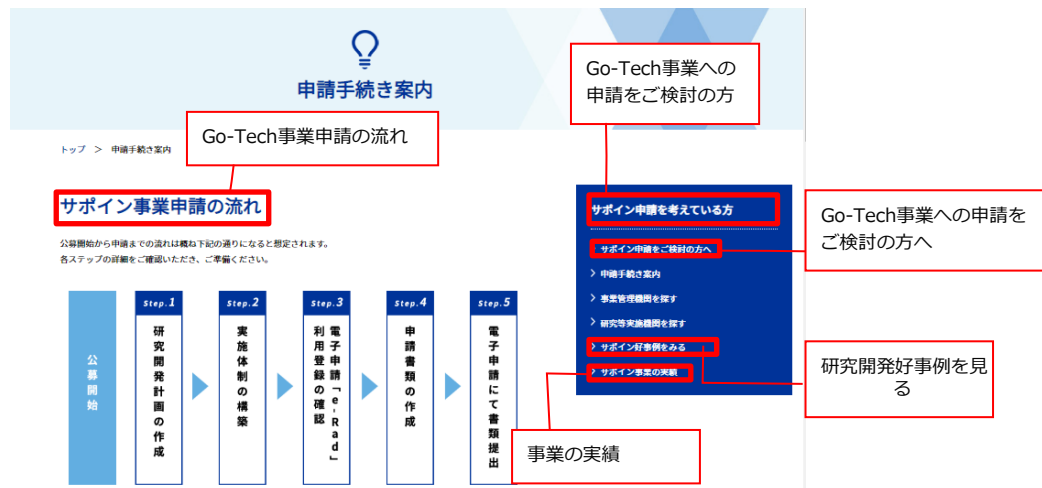


2. 新たなネットワークの構築

・Go-Tech事業は1企業（団体）単独では申請できず、大学等の研究機関や事業管理機関と共同体を構成する必要があります。Go-Tech事業をきっかけとして、これまでとは異なるつながり・ネットワークの構築や、自社だけではできなかったより深い研究開発を行うことができます。さらにGo-Tech事業にとどまらず、新たな研究開発実施等につなげていただくことができます。

(5) サポイン事業申請の流れ

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/application/flow/>



Step1 研究開発計画の作成

- ・計画は「中小企業の特定制品のづくり基盤技術の高度化に関する指針」に沿っている必要があります。
検討中の計画が技術指針の内容と合致していることが必須要件となりますので、必ず技術指針を確認し研究テーマを決めましょう。
- 技術指針では、12の技術分野ごとに最終製品を製造する川下製造業者等の課題やニーズ、それに対応した高度化の目標、その目標を達成するために必要な研究開発の方向性を定めています。
- 策定しようとしている計画は、技術指針に合致しているとともに、市場や川下製造業者等からのニーズに応えるものである必要があります。

<中小企業の特定制品のづくり基盤技術の高度化に関する指針>

<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/shishin.html>



- ・「技術指針」→「高度化指針」に修正（全3か所）
- ・「12の技術分野ごとに～」を「技術分野ごとに～」に修正

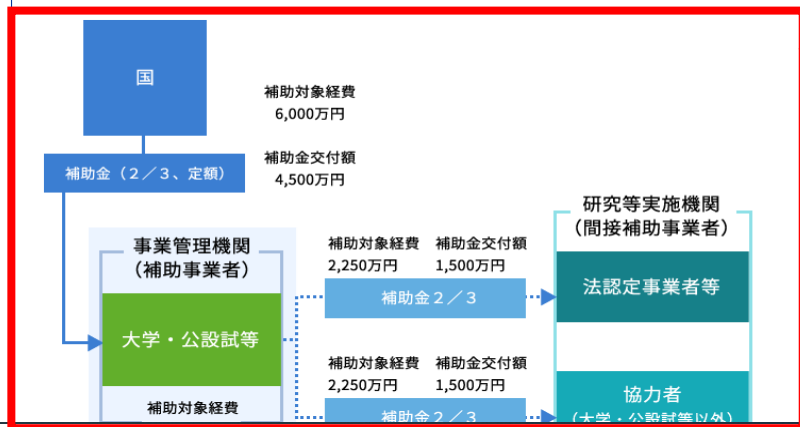
Step2 実施体制の構築

- ・この事業には単独では申請できず、共同体を構成する必要があります。
共同体は、事業管理機関、研究等実施機関（同一者が担うことも可）を含む2者以上で構成する必要があります。
- ・事業管理機関：複数の企業や研究機関が関わることから、補助金の執行やスケジュール管理などを担当します。都道府県等中小企業支援センターなどが務める場合が多いです。
- ・研究等実施機関：研究等実施機関は、研究開発等を実施する研究者が所属する大企業、中小企業、NPO、大学・公設試等又は個人事業者です。

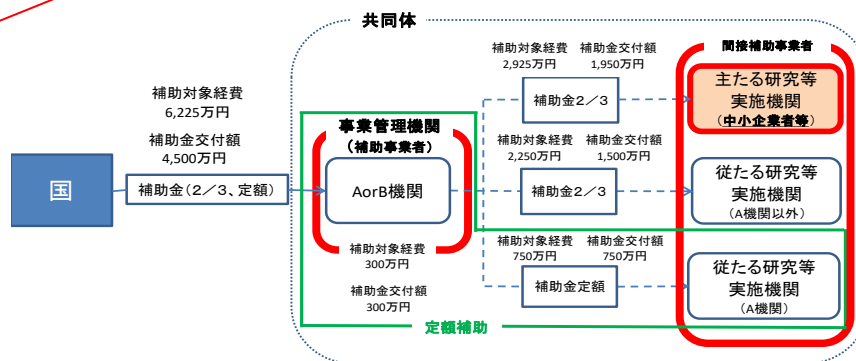
<申請する際の共同体の構成イメージ>

※以下の金額は初年度のイメージ例です。

■事業管理機関が大学、公設試等の場合



下記内容に修正





サポインマッチナビ
ものづくり中小企業のビジネスマッチングサイト

ニュース

相談窓口

検索

文字サイズ

標準

大

色の変更

白

青

黄

黒

サポインとは？

申請を
考えている方

サポイン実施中
卒業企業

サポイン企業と
連携したい方

よくあるご質問

資料ダウンロード

<府省共通研究開発管理システム「e-Rad」>

<https://www.e-rad.go.jp/>



Step4 申請書類の作成

・下記の必要書類を作成し、提出します。

◆必要書類◆

1.提案様式等

・[提案書等様式ダウンロード（令和2年度）](#)

2.最近1年間の決算報告書（貸借対照表、損益計算書など）

（2.がない場合は、最近1年間の事業内容の概要を記載した書類）など

※上記1～2を保存した電子媒体（CD-R）等の提出も必要です

※直近の公募要領はこちらをご覧ください。

[戦略的基盤技術高度化・連携支援事業 公募要領（令和2年度）](#)

[戦略的基盤技術高度化・連携支援事業 公募要領（平成31年度）](#)

[戦略的基盤技術高度化・連携支援事業 公募要領（平成30年度）](#)



赤四角内の文字全て削除し、「申請書類を作成し、提出します。申請書類は中小企業庁ホームページに掲載します。」と記載

(6) 関連施策・連携マッチングサイトの紹介

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/ongoing/link/>

関連施策・連携マッチングサイトの紹介

サポイン事業者や、事業管理機関を対象とした販路開拓、知財相談、資金調達等の支援施策、連携マッチングサイト等の関連サイトを紹介します。目的やニーズに合わせてご覧ください。

Go-Tech実施事業者や、事業管理機関を対象とした販路開拓、知財相談、資金調達等の支援施策、連携マッチングサイト等の関連サイトを紹介します。目的やニーズに合わせてご参照ください。

その他関連情報を知りたい

技術開発を支援する！SBIR【中小機構】

サポイン事業は、「中小企業技術革新制度（SBIR）」において、「特定補助金等」の指定を受ける予定です。指定された補助金等の交付を受けた中小企業は、その成果を利用した事業活動を行う際に各種の支援措置の特例を受けることができます。

<https://i.net21.smrj.go.jp/develop/sbir/subsidy/index.html>

Go-Tech事業は、「中小企業技術革新制度（SBIR）」において、「特定補助金等」の指定を受ける予定です。指定された補助金等の交付を受けた中小企業は、その成果を利用した事業活動を行う際に各種の支援措置の特例を受けることができます。

- ・ミエールヒント【経済産業省】 →削除
- ・知財総合支援窓口知財ポータル →リンクを修正 <https://chizai-portal.inpit.go.jp/>
- ・知財人材データベース【工業所有権情報・研修館】 →項目削除
- ・J-GoodTech【中小機構】 →リンクを修正 <https://jgoodtech.smrj.go.jp/>
- ・新価値創造PORTAL【中小機構】 →項目削除
- ・中小企業施策利用ガイドブック【経済産業省】 →リンクを修正 https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/g_book/2022/index.html
- ・技術開発を支援する！SBIR【中小機構】 →削除
- ・特定補助金採択企業検索【中小機構】 →削除
- ・競争的資金の適正な執行に関する指針【内閣府】
→リンクを修正 https://www8.cao.go.jp/cstp/compefund/shishin_r3_1217.pdf
- 件名を「競争的研究費の適正な執行に関する指針【内閣府】」と修正
- ・競争的資金の間接経費の執行に係る共通指針【内閣府】
→リンクを修正 https://www8.cao.go.jp/cstp/compefund/kansetsu_sikkou.pdf
- 件名を「競争的研究費の間接経費の執行に係る共通指針【内閣府】」に修正
- ・法人インフォ【経済産業省】
→リンクを修正 <https://info.gbiz.go.jp/>
- 件名を「gBizINFO【経済産業省】」に修正

(7) 新着情報

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/news/>



(9) サポイン好事例を探す

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/ongoing/casestudy/>

<一覧ページ>

Annotations on the homepage:

- Red box around the thumbs-up icon: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す

検索 (105件)

105件中 1～10件を表示

表示件数 10件

イヨカンの皮を化粧品原材料に、地域の特産品に新たな価値を創出

企業名: 愛媛製紙株式会社

プロジェクト名: 組織由来セルロースナノファイバーの革新的製造プロセス及び用途開発

基礎技術分野: 複合・新機能材料

事業終了年度: 令和2年

<詳細ページ>

Annotations on the case study page:

- Red box around the search button: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す
- Red box around the search button: サポイン好事例を探す

トップ サポイン好事例検索 イヨカンの皮を化粧品原材料に、地域の特産品に新たな価値を創出

イヨカンの皮を化粧品原材料に、地域の特産品に新たな価値を創出

愛媛製紙株式会社

技術課 技術課主任 矢木 誠一様

検索 (105件)

サポイン技術情報

研究開発技術情報

プロジェクト名: 組織由来セルロースナノファイバーの革新的製造プロセス及び用途開発

事業実施年度: 平成30年度～令和2年度

同じ技術分野のサポイン好事例

同じ技術分野の研究開発好事例

Case studies shown:

- 北川精機株式会社: 新素材CFRTPの特性を活かしてサイズ・構成自由度を高めるための超層板成形ラインを構築
- CONNEXSYSTEMS株式会社: 革新的雷電技術でエネルギー社会に高効率出力型バッテリー「HYPER Battery」の事業化に向けて
- ホクシン株式会社: 先見性を持った研究テーマを選定・継続するとともに、多様な知見を活用することで開発の時間軸を短縮する

(10) よくあるご質問①

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/faq/>

トップ > よくあるご質問

サポイン事業について

Go-Tech事業について

Go-Tech事業の申請について

Go-Techナビについて

Q. サポインとは何ですか？

A. サポインとは、「サポーターリングインダストリー」の略で、日本の製造業を支える中小企業のものづくり基盤技術のことを指しています。経済産業省では、サポインの高度化につながる研究開発の取組を支援しています。

Q. サポイン事業とは何ですか？

A. ものづくり基盤技術の高度化・新技術の開発に向けて、中小企業者が川下企業や研究機関等と協力して行う研究開発を国が資金的に支援するものです。サポイン事業の実施にあたっては、事業提案に係る採択審査を経ております。詳細はこちらをご覧ください。
[＜サポインとは？＞](#)

Q. サポイン事業で開発された技術はどんな特徴があるのですか？

A. 中小企業が作成・提案した研究開発計画を、技術と事業化の両面から川下ユーザー等のニーズを踏まえて評価し、より評価が高かったものが採択されているため、しっかりとした研究開発の案件が揃っているだけでなく、川下企業の生産性や品質の向上、コストの低減など企業の競争力の向上に活かせる技術や製品が揃っています。

Q. どのような支援が受けられますか？

A. 最大97,500,000円の補助金の交付（3年間の合計）など、様々な支援を受けることができます。

[＜サポイン申請をご検討の方へ＞](#)

Q. サポイン事業で購入した機械装置の扱いはどのようにになりますか？

Q. サポイン事業ではこれまでどれぐらいの実績がありますか？

A. サポイン事業は平成18年度から始まり、これまで2,000件を超える中小企業・小規模事業者による研究開発プロジェクトを支援しています。詳細はこちらをご覧ください。
[＜サポイン事業の実績＞](#)

目的から探す

- サポイン事業について
- サポインの申請について
- サポインマッチナビについて

削除

Q. Go-Tech事業とは何ですか？

A. Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）とは、中小企業が大学・公設試等の研究機関等と連携して行う研究開発、試作品開発及び販路開拓への取組を最大3年間支援する事業です。

※商業・サービス競争力強化連携支援事業（サビサボ事業）、戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）については、令和4年度より「Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）」に統合されることとなりました詳細はこちらをご覧ください。

＜Go-Tech事業とは？＞

Q. 過去研究開発された技術はどんな特徴があるのですか？

＜Go-Tech事業への申請をご検討の方へ＞

Q. Go-Tech事業で購入した機械装置の扱いはどのようにになりますか？

Q. Go-Tech事業ではこれまでどれぐらいの実績がありますか？

A. Go-Tech事業（旧サポイン事業）は平成18年度から始まり、これまで2,000件を超える中小企業・小規模事業者による研究開発プロジェクトを支援しています。

詳細はこちらをご覧ください。

＜Go-Tech事業の実績＞

研究開発や試作品開発等の取組について支援を受けることができます。

補助上限は通常枠：3年間合計9750万円以下
出資獲得枠：3年間合計3億円以下です。

(10) よくあるご質問②

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/faq/>



トップ > よくあるご質問

Go-Tech事業への申請について

○ サポインの申請について

Q. サポイン事業にチャレンジするにはどうすればよいでしょうか？

A. サポイン事業は単独では申請できず、事業管理機関、研究等実施機関（同一者が担うことも可）を含む2者以上で共同体を構成する必要があります。
詳細はこちらをご覧ください。
[<まる分かり！申請手続き案内>](#)

Q. Go-Tech事業にチャレンジするにはどうすればよいでしょうか？

A. Go-Tech事業は単独では申請できず、事業管理機関、研究等実施機関（同一者が担うことも可）を含む2者以上で共同体を構成する必要があります。
詳細はこちらをご覧ください。
[<まる分かり！申請手続き案内>](#)

○ サポインマッチナビについて

Go-Techナビについて

Q. サポインマッチナビはどんなサイトですか？

A. サポインへの申請を検討している方、サポイン実施中もしくは完了した方、サポイン実施企業と連携したい方。
それぞれのニーズに沿った情報を紹介しているサイトです。
また、これまでサポイン事業を活用して研究開発された技術や製品の紹介、プロジェクト好事例を多数、紹介しておりますので是非ご覧ください。

Q. Go-Techナビはどんなサイトですか？

A. Go-Tech事業への申請を検討している方、過去採択された方、研究開発実施企業と連携したい方。
それぞれのニーズに沿った情報を紹介しているサイトです。また、これまで研究開発された技術や製品の紹介、プロジェクト好事例を多数紹介しておりますので是非ご覧ください。

Q. 「サポインマッチナビ」に掲載されている技術・製品等はどのような基準で掲載されているのでしょうか？

A. 中小企業庁が支援している「サポイン事業」を活用して研究開発された技術や製品を紹介しております。
当サイトでは補助事業期間が終了した案件を中心に掲載しております。
[<サポイン技術の検索はこちら>](#)

Q. 「Go-Techナビ」に掲載されている技術・製品等はどのような基準で掲載されているのでしょうか？

A. 中小企業庁が支援している「Go-Tech事業（旧サポイン事業）」を活用して研究開発された技術や製品を紹介しております。
当サイトでは補助事業期間が終了した案件を掲載しております。
[<開発技術の検索はこちら>](#)

Q. サポイン事業で開発された技術について問い合わせたいのですが？

A. サポイン技術詳細ページのサポイン事業者・企業情報に掲載されている連絡先へ直接、お問い合わせください。

Q. 開発された技術について問い合わせたいのですが？

A. 研究開発技術ページのサポイン実施事業者・企業情報に掲載されている連絡先へ直接、お問い合わせください。

(11) 資料ダウンロード

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/download/>



[トップ](#) > [資料ダウンロード](#)

○ 採択状況について

 [これまでの戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）支援実績](#)（PDF形式：0.1MB）

 [技術分野別・地域別採択状況（令和3年度）](#)（PDF形式：0.24MB）

これまでの支援実績

(12) 技術紹介・詳細ページ

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/cooperation/project/detail/1010>



プロジェクトの実施体制

サポイン事業者	キョーユー株式会社
事業管理機関	公益財団法人みやぎ産業振興機構
研究等実施機関	株式会社折居技研 株式会社セイワ工業 東北特殊鋼株式会社 トヨタ自動車東北株式会社(現：トヨタ自動車東日本株式会社) 宮城県産業技術総合センター

主たる研究等実施機関

サポイン事業者 企業情報

企業名	キョーユー株式会社 (法人番号：2370201000124)
事業内容	省力化機械装置及び金型・治工具の設計製作
社員数	92 名

主たる研究等実施機関 企業情報

(13) 相談窓口ページ

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/contact/>

相談窓口

本事業に関する相談は主たる研究開発等の実施場所の都道府県を担当する経済産業局にお問い合わせください。

担当エリア	機関名	住所	電話番号	URL
北海道	北海道経済産業局 地域経済部 産業技術課	〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目 札幌第1合同庁舎	011-709-5411	https://www.hkd.meti.go.jp/chart/hokcb.htm#hokig
青森・岩手・宮城・秋田・ 山形・福島	東北経済産業局 地域経済部 産業技術革新課	〒980-8403 宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎B棟	022-221-4897	https://www.tohoku.meti.go.jp/s_sangi/index_sangi.html
茨城・栃木・群馬・埼玉・ 千葉・東京	関東経済産業局	〒330-0715	049-600-0207	https://www.kanto.meti.go.jp/

全地方局のURL列の削除

（1）令和3年度に終了した130件のサポインプロジェクト情報データの作成

①調査票の見直し

- ・昨年、使用した調査票をもとに説明文や注意事項の文言を改修しました。

②事前の調査票（一案）の作成

- ・調査票の作成を依頼する前に、成果報告書の内容を元に予め調査票に一案を作成しました。

③調査票の送付・提出依頼

- ・各プロジェクトの事業管理機関宛てに調査票をメールで送付後、電話で提出依頼を行いました。
期日までに提出のなかったプロジェクトに対して提出の催促を電話で行いました。
- ・依頼の結果、130件の調査票を回収しました。

※対象のプロジェクト一覧は次ページ以降をご覧ください。

④本番サイトへの反映

- ・回収した調査票の内容をテストサイトに登録し、本番サイトに反映するページデータを作成しました。
- ・検証サイト・本番サイトへのデータ更新手順書作成し、中小企業庁様にて反映作業を実施しました。

＜調査対象プロジェクト一覧＞

	採択年度	終了年度	計画名
1	R1	R3	農作物病害抽出配信サービスシステムの開発及び販売
2	R1	R3	リン酸化プルランの大量・精密製造技術の確立と短期骨再生を可能とするペスト状人工骨の開発
3	R1	R3	蓄電池用カーボン成形体における高性能化と高速製造の研究開発
4	R1	R3	フリーストール牛舎のためのAIを用いた映像解析による乳用牛個体管理システムの開発
5	R1	R3	ウニの実入改善を実現する海藻等未利用バイオマス再資源化と利用技術の確立
6	R1	R3	フィギュア市場向け成形型の企画から完成までの製作期間を大幅に短縮させるプロセスの開発
7	R1	R3	液体原料ガスを用いたミニマルファブ用プラズマ援用多結晶シリコン気相成長装置の開発
8	R1	R3	自動車の塗装外観検査を無停止で自動化する、AIを用いた画像検査装置の開発
9	R1	R3	透明基材を用いた高周波デバイス対応両面配線プロセス形成技術の開発
10	R1	R3	国産養殖サーモンの移入・輸出を実現する屋外循環式の大規模中間育成魚高密度生産システムの研究開発
11	R1	R3	超音波噴霧解析とMEMS精密電鍍技術によるマイクロミスト発生用金属メッシュの開発
12	R1	R3	3Dゲルプリンティングシステムの製品化・事業化に向けた、高速・高精度・透明/白色化技術の開発
13	R1	R3	少量多品種・低コスト化を実現する有機ELの革新的製造プロセスの開発
14	R1	R3	形状評価及び外観検査機能を有するプラスチックベレット品質検査システム開発
15	R1	R3	大型プラントメンテナンスに用いる振動センサネットワークノードモジュールの研究開発
16	R1	R3	テラヘルツ波偏光計測を用いたフッ素樹脂（PTFE）内部残留応力評価法での残留応力計測による切削加工品質の安定化の研究開発
17	R1	R3	「感情表現エンジン」の開発と応用製品の研究
18	R2	R3	電界攪拌技術を用いた新型ウイルス対応迅速検査システムの開発
19	R2	R3	次世代光通信（5G/Beyond5G用）を先導する超薄型光入出力部品“S-LPC”の開発
20	R1	R3	次世代有機ELディスプレイを省電力化・低コスト化する超耐熱高靱性タングステン材の大型化に向けた製造技術の開発
21	R1	R3	異形状多部品成形技術の高度化及び、自動型内ゲートカット技術との統合により、生産効率を向上したプラスチック射出成形用金型の開発
22	R1	R3	E V向け超ハイテン用金型の革新的生産プロセスの開発
23	R1	R3	画像ビッグデータ取得のための高性能ウルトラマイクロームの研究開発
24	R1	R3	脱着可能な小型基準電圧源を用いた校正（運用）コストを低減させる高精度電子計測器の研究開発
25	R1	R3	IoT技術を活用した農業の効率化および高効率エネルギーマネジメントシステムの開発
26	R1	R3	耐久性の高い低温固体酸化物可逆動作セルのスタック化と小型なエネルギー循環システムの開発
27	R1	R3	高精度温度イメージング技術と熱処理生産システムによるスマート熱処理ラインの構築
28	R1	R3	軸姿勢検出機能を有する中空大型の3D高機能ロータリーエンコーダの開発
29	R1	R3	ダイヤモンド電極を用いた残留塩素濃度測定センサーの開発
30	R1	R3	圧倒的な高品質・低価格を実現するプレス複合深絞り技術を見現化した汎用プレス機用金型の開発

31	R1	R3	3D構造最適設計を用いた軽量EV用アルミニウム合金メインフレームの開発
32	R1	R3	電子材料向け導電性ペースト原料であるジヒドロターピネオールの安定供給を実現する新規パイオ製法開発
33	R1	R3	汎用性の高い遺伝子編集用iPS細胞株の開発と販売およびiPS細胞株を利用した高機能型脾臓β細胞の開発と事業化
34	R1	R3	精密スピンドル内径研削装置及び高精度研削加工技術の研究開発
35	R1	R3	高性能モータ用アモルファス箔積層モータコアのプレスせん断加工量産技術の開発
36	R1	R3	省人力で安定的な水質管理を可能とする新規スマート陸上養殖システムの開発
37	R1	R3	これからのEV社会に向けたパワー半導体向け革新的研磨装置の開発
38	R1	R3	電動化社会を支える、モータ向け電磁鋼板せん断加工用の先鋭化高硬度工具の開発
39	R1	R3	半導体製造工程でパーティクルフリーを実現する高速厚膜SiCコーティング技術の開発
40	R1	R3	次世代コンデンサ用ナノファイバーセパレータの製造プロセス完全VOCフリー化に関する研究開発
41	R1	R3	産業設備、インフラ、車両等の無線によるIoT化を実現する小型ハーベスティングセンサーとデータ処理システムの開発
42	R1	R3	透明パネル積層技術を用いた医療用臓器モデル立体ディスプレイの開発
43	R1	R3	難加工材の微細・高精度成形を可能にする温間順送プレス工法の開発
44	R1	R3	次世代自動車向け軸付きはすば歯車の冷間鍛造新製法にかかる研究開発
45	R1	R3	マイクロテクスチャエンドミルの主軸反転傾斜切削による超微粒パウダー製造技術の開発
46	R1	R3	大容積大気圧プラズマ技術を活用した低温食材殺菌機の開発
47	R1	R3	エアコン用圧縮機の省エネと小型化を両立する高強度軽量スクロール翼のニアネット鑄造技術の開発
48	R1	R3	航空宇宙分野セラミックマトリックス複合材料（CMC）の3次元配向分析技術開発による検査技術の確立
49	R1	R3	プラント配管向け高精度減肉計測用X線ラインセンサの開発
50	R2	R3	アモルファス金属ガラス溶射を用いた磁歪式トルクセンサの開発
51	R1	R3	湿式処理により蓮の葉構造をナノレベルで再現する安価な撥水処理技術の研究開発
52	R1	R3	FA生産システムの制御ソフトを自動生成する機能を持った「新型制御装置」の研究開発
53	R1	R3	建築物におけるアスベスト含有仕上塗材を安全かつ完全に除去できる革新的剥離工法の開発
54	R1	R3	インライン・インプロセスモニタリング自動レーザ肉盛り溶接システムの研究開発
55	R1	R3	国産木質素材の流動成形による“木材の質感”を備えた高級車車内空間部材の量産化研究開発
56	R1	R3	風力削減に風車を用い、削減過程で発電、その電力により回転を自己制御し、風害の発生を防ぐ建材の研究開発
57	R1	R3	金属製品の高品質化・低コスト化を達成する低温摩擦接合装置の開発
58	R1	R3	感染治療機能を有する複合材料製人工股関節の研究開発
59	R1	R3	サーボプレス機構と高速加熱技術を用いた一方向熱可塑性CFRPリベットの革新的ハイスサイクル接合技術開発と事業化
60	R1	R3	樹脂成型品の表面を光干渉制御技術で加飾する研究
61	R1	R3	皮膚バリア機能を改善する麴由来化粧品原料の開発と事業化
62	R1	R3	金型のダウンサイジング（小型化）を実現する鑄造条件の研究開発
63	R1	R3	ウルトラファインパブル・高圧クーラントハイブリット加工による国産ハステロイ製部品の高精度・高効率加工技術の開発
64	R1	R3	ウルトラファインパブルを用いた食品の品質改善及びそれに適した発生装置の開発
65	R1	R3	注射針による医療事故と感染症の発生リスクを解消した、革新的な動物用無針注射器の研究開発

66	R1	R3	安定した高精度プレス加工を可能にする“加工力調整装置”を搭載した金型構造及びプレス生産技術の研究開発
67	R1	R3	ダイカスト金型破損の原因解析と解析結果を基とした低廉化金型の商品化
68	R1	R3	炭素繊維強化複合材加工と生産性を両立するレーザー技術の研究開発
69	R1	R3	超硬合金積層造形とハイブリッド加工による超薄肉長尺精密ジグの革新的製造技術の開発
70	R1	R3	高性能プロセッサの発熱問題を解決する環境調和型電子冷却モジュールの開発
71	R1	R3	熱可塑性樹脂FRPの革新的中空構造部材作製技術の開発
72	R1	R3	航空機部材に適用する熱可塑性CFUDテープを用いたDC/DI（ダイレクト・コンソリデーション/ダイレクト・インスペクション）プロセスの開発
73	R1	R3	変形性膝関節症治療のための高強度小型立体固定プレート及び固定方式の開発
74	R2	R3	身体親和性シリコンにより補聴器装着を快適にする革新的イヤチップの開発
75	R2	R3	先天性心疾患に対する姑息手術成績向上のための埋め込み型人工血管流量調整装置の開発
76	R1	R3	波長カットフィルムを用いた視覚補正カスタマイズレンズ製造技術の開発と実用化システムの構築
77	R1	R3	高圧配管用継手の機械加工ラインにおける画像認識A I活用による内面バリ検査自動化システムの開発
78	R1	R3	世界一の超低NOx・低CO ₂ 高運転効率を実現するAI運転制御機能付SDGs達成小型蒸気ボイラ（スーパー10JAFIボイラ）の研究開発
79	R1	R3	低濃度VOC除去能を有する電子部品製造クリーンルーム用のケミカルフィルタの開発
80	R1	R3	ガラス樹脂基板材料による多ピン・狭ピッチ半導体デバイス検査対応の高アスペクトスルホール形成技術の研究開発
81	R1	R3	直流電力変換装置の高効率・省エネ化の実用化研究
82	R1	R3	高効率に骨髓幹細胞採取が可能な安全かつ低侵襲ハイパーフォーマンス技術開発
83	R1	R3	腸内細菌脂質代謝物のライブラリー化及び量産化開発
84	R1	R3	生体の分子認識を応用したペプチドマイクロアレイによるバイオ検出システムの実用化開発
85	R1	R3	ラマン分光技術を応用した歯科医療機器診断計測装置の研究開発
86	R1	R3	IoTを活用した工作機械の知能化による自律加工技術の開発
87	R1	R3	ガラスレンズ成形用CVD-SiC金型の高効率研削加工技術の開発
88	R1	R3	「熱間鍛造の生産性を飛躍的に向上させる革新的耐熱合金型の開発」
89	R1	R3	最先端プラズマ・紫外線照射技術を併用したガス中のヒドロキシルラジカル生成プロセスを活用した制菌システムの開発
90	R1	R3	5G移動通信システムの実現に向けた低誘電率樹脂の直接接合技術の開発
91	R1	R3	厚み方向に含有成分が連続的に変化する被膜を形成できる溶射装置の研究開発
92	R1	R3	実用性と安全性が大幅に改良された無機ナノハイブリッド光触媒塗料の開発
93	R1	R3	金属と樹脂との直接加圧溶着技術の高性能化と低コスト溶着装置開発
94	R1	R3	次世代核酸創薬開発を加速させるデリバリーナノ粒子の製造システムの確立
95	R1	R3	農産物の輸出に向けた長期品質保持を実現するカテキン・酸素水ナノミスト技術の開発
96	R1	R3	社会インフラの充実を目指す「IoT連動型 Mg合金製梯子の開発」＜女性の社会進出を応援する超軽量・コンパクトな伸縮式梯子の実現＞
97	R1	R3	行動解析による画期的な個人対応型AI見守りロボットの開発
98	R1	R3	製造装置の故障予兆を安価・軽量に検知する量子機械学習エッジコンピューティングの開発
99	R1	R3	AIを用いた診断根拠提示型細胞診断高度支援システムの研究開発
100	R1	R3	直接接合法による高密度先端実装デバイス用一括自動接合技術の開発

101	R1	R3	寺社等を含む木造建築において伝統的外観を維持しつつ、耐震性・耐久性を飛躍的に向上させる柱と地面の結合方法の開発
102	R1	R3	リサイクル炭素繊維を活用した高剛性CFRP遠心抄造法及び橋梁用CFRP補修工法の研究開発
103	R2	R3	既存心臓人工弁尖材料の課題を自己組織化で克服する経編の応用
104	R2	R3	ヒトIPS細胞由来の樹状細胞を用いたウイルス培養細胞製品の開発
105	R1	R3	革新的不動態厚膜形成法によるステンレス配管・容器溶接部等の高耐食化処理システムの実用化開発
106	R1	R3	マイルドプラズマ処理と精密ラミネートによるフッ素樹脂と銅箔を直接接合する低損失基板製造技術の開発
107	R1	R3	高収率粒子製造を可能とするインバート式ハイブリッドICP装置開発
108	R1	R3	医療・介護従事者および対象者の負担を軽減する印刷法を基軸とした電極作製技術を用いた使い捨て可能な離床センサーの開発
109	R1	R3	国産針葉樹（スギ・ヒノキ）の高付加価値化に資する革新的フラン樹脂化技術の開発
110	R1	R3	次世代電池の開発加速を実現する充放電時の内部電位可視化装置（テラヘルツ波ケミカル顕微鏡）開発
111	R1	R3	自動車用シート構造部材の軽量化と高生産性を実現する新レーザー溶接システムの研究開発
112	R1	R3	深部加熱が可能で抜群の省エネルギー化を実現する革新的な磁気加熱式によるアルミ押出加工用アルミビレット加熱装置の実用化開発
113	R1	R3	大口径・高品質SiC単結晶成長のための新規周波数可変型マルチ高周波誘導加熱炉の開発
114	R1	R3	メタボリックシンドローム予防を目的とした革新的な機能性食品素材（米ぬか発酵代謝物）の研究開発
115	R1	R3	有用タンパク質の超低コスト化を実現するタンパク質高発現無細胞合成系の開発
116	R1	R3	海外展開を見据えた世界初の高濃度排水処理（EGSB法）用グラニュー粒産システムの開発
117	R2	R3	次世代半導体プロセスに対応可能な超臨界技術を用いたウエハ乾燥技術の開発
118	R1	R3	基礎杭等の健全性評価と寸法測定を目的とし自動打撃装置とA I 化された衝撃弾性波解析により汎用性と精度が高い非破壊調査システムの開発
119	R1	R3	がん患者一人ひとりに最適な抗がん剤が投与できることを目的に、イムノクロマト技術を活用した抗がん剤 5 - F U の濃度測定キットおよび至適投与量調整システムの開発
120	R1	R3	安全な自動運転に貢献する車載カメラレンズを製作するため、N P D（ナノ多結晶ダイヤモンド）製工具の高精度切削加工技術を活用した広角度・超硬合金製ガラスレンズ金型の開発
121	R1	R3	新素材を切削加工した鋳造型による低コスト小中ロット用アルミダイカスト鋳造法の開発
122	R1	R3	日本初の機能性表示食品制度に適合した高機能性プラセンタエキスの開発
123	R1	R3	低コスト化・難燃化ニーズに応えるため、表面改質技術とテンション制御技術を活用した樹脂製亀甲網の開発
124	R1	R3	高調波規制に適合し省エネ・小型化を実現するためブリッジレスアクティブフィルタ方式を用いた次世代高効率三相交流電源ユニットの開発
125	R1	R3	次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発
126	R1	R3	三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発
127	R1	R3	電解硫酸技術を活用した屋外で白化にくいアルミ合金製品と表面処理装置の開発
128	R1	R3	世界初の脂溶性ポリフェノールの量産化を目的に、独自の抽出・濃縮・精製技術による焼酎かすからの製造技術の確立
129	R1	R3	焼酎粕の処理費低減とオーガニックな飼料提供のための長期保存可能な焼酎粕完全利用技術を活用した動物用サプリメント開発
130	R1	R3	遺伝子組換えカイコの繭による医薬品製造プラットフォームの構築と途上国向け感染症診断薬の開発」

(1) サポインマッチナビに登録済みのプロジェクトの事業化状況を更新

①更新対象プロジェクトの選定

- ・フォローアップ調査の結果をもとに、事業化状況を更新する対象のプロジェクトを選定しました。(75件)

②本番サイトへの反映

- ・選定したプロジェクトの事業化状況をテストサイトにて更新し、本番サイトに反映するページデータを作成しました。
- ・テストサイトから本番サイト更新用のデータを抽出し、本番サイトへの反映を中小企業庁様にて実施しました。

※更新対象のプロジェクト一覧は下記のとおり。

計画名	更新前の事業化状況	更新後の事業化状況 (フォローアップ調査の結果)
1 高精度冷間圧延用工具の低歪み高速加工プロセス開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
2 異種積層材向けPCD(多結晶ダイヤモンド)微細複合工具成形技術の開発	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
3 7067アルミニウム材を用いた新方式超高感度磁気センサの量産技術確立と用途探索	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
4 高機能薄膜製造における高粘度スラリー液用極低脈動移送ポンプの開発	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
5 信頼性・経済性に優れた高精度な測定技術による建物外壁の点検・診断技術の研究開発	F：研究実施中	B：事業化に成功
6 内面欠陥検査・径測定・真円度測定を同時に可能にするレーザー3次元内面検査装置の実用化開発	E：実用化間近	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
7 ハイパワースペクトル波を活用した埋設配管探傷技術の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
8 エンジンの軽量化に貢献するシリンダーヘッドがスクエア能力制御技術の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
9 走行機能付次世代型5軸制御ロボット加工機の開発	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
10 厚板小物高精度絞り部品の製造を可能とする工程独立式可変速押し込み複動機構を用いた押し込み絞り加工技術の確立	C：実用化に成功し事業化間近	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
11 川下及び業界ニーズに対応する低コスト・高安全な圧倒的コンパウンド鋳造法の開発	F：研究実施中	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
12 炭素繊維強化樹脂複合電極の技術開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
13 蛍光発光する蓄熱基材による温室栽培植物の育成促進と大幅省エネを実現する高機能農園芸システムの開発	-	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
14 青色レーザーを用いた樹脂金属三次元的動的機構運動接合技術の開発	-	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
15 日用品市場向けCFRP部品の大量生産技術の研究開発	-	F：研究実施中
16 抗体遺伝子迅速単離システムを応用した機能性抗GPCR抗体製造の高度化	C：実用化に成功し事業化間近	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
17 発酵ナノセルロース(NFBC)の効率的培養方法と分離精製技術の確立による量産化	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
18 最新鋭小型高性能コンモードライフボートの開発	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
19 金型・砂型の複合工法による高品質複雑形状鋳物の開発	-	F：研究実施中
20 大型ロボット機械におけるカクタンク予防技術の開発	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
21 円筒絞り部品への内径加工を汎用ロボットのみで完結できる金型の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
22 電動アシスト自転車用高トルクセンサSRモータを用いたドライブユニットの開発	-	B：事業化に成功

23	高効率・高品位加工を実現する多孔質ハニカム・イモド・砥石とハイドロプレス融合させた研削・研磨システムの開発	-	C：実用化に成功し事業化間近
24	高効率・高精度回転体型X線ミラーの製造技術の開発	C：実用化に成功し事業化間近	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
25	回転軸の軸方向検出機能を付加した自己校正型ロータリーエンコーダの開発	E：実用化間近	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
26	単一の測定装置による熱電3物性値の同時計測可能な方法の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	B：事業化に成功
27	高精細多積層転写技術を用いた透かし情報紙による製品のブランド化	-	B：事業化に成功
28	航空機・自動車部品等の材料と冷間鍛造間の加工最適化及び高生産性を実現する流体表面研削技術の開発	-	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
29	衝撃波による粉塵剥離メカニズムを応用したメンテナンス集塵装置の開発と事業化	-	B：事業化に成功
30	Ti50Ni合金の組織緻密化による細径収縮/高耐久性/高自己拡張型メントの開発	-	G：研究中止または停滞中
31	自動車衝突安全規制に適合するステリングシステムの溶接技術開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
32	究極の高均一性・高磁気特性・高生産性ND-FE-B焼結磁石の製造装置開発	-	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
33	高発現表面タンパク質を標的とした低コスト迅速分析を可能とする微生物検査の革新	-	F：研究実施中
34	革新的冷却部材の最適化量産製造プロセスの開発	-	B：事業化に成功
35	航空機用繊維強化樹脂材料の高効率曲面仕上げを可能とするフレキシブルメタルシートの実用化開発	-	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
36	自動車用デジタルの高強度化を実現するための高精度歯面設計システムの構築	C：実用化に成功し事業化間近	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
37	電池の大容量化、充放電速度の高速化及び高リサイクル特性並びに低コスト化を目的とした、アモルフィス繊維を集電体として用いた革新的リチウム電池の開発	-	E：実用化間近
38	難燃性マグネシウム合金の機械加工による部品製造技術の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	B：事業化に成功
39	ジェット粉末の高品位・高効率成形技術の研究開発	C：実用化に成功し事業化間近	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
40	介護・ヘルスケア応用に向けた大面積シート型脈波センサの開発	E：実用化間近	C：実用化に成功し事業化間近
41	機械保全に資する潤滑油残存監視装置の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
42	低温高密度ガラスマ改質技術を用いた赤外用レンズ量産製造用金型の開発	E：実用化間近	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
43	消化器内視鏡手術における早期がんを切除するための切断性能が高く、高レスポンスの動力伝達性能を有する高周波を使わないはさみの開発	E：実用化間近	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
44	中高層木造ビルを実現する高性能な大型木質部材の効率的な製造技術と接合技術の開発	C：実用化に成功し事業化間近	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
45	精密水流制御と画像処理技術を統合した農産物選搬用車両洗浄装置の開発	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
46	非接触型赤外線赤外分光器の開発と実用化	F：研究実施中	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
47	次世代車両向け120℃で自己加熱温度制御できるナノカーボン樹脂複合体ヒータの開発	F：研究実施中	C：実用化に成功し事業化間近
48	次世代自動車バスフリー通話システムのための音声強調信号処理技術の研究開発	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
49	金属積層造形における薄肉形状製品の品質・生産性向上のための生産支援ソフトウェア開発	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
50	世界初の量産普及型緩まないねじ生産用「転造金型」の開発	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
51	エネルギー効率改善に寄与する電解水を用いたスケール析出抑制除去装置の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
52	高機能・環境に配慮したハイブリッド難燃剤の開発	E：実用化間近	C：実用化に成功し事業化間近
53	和光ファイバ光学素子を活用した光沢面外観検査システムの研究開発	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
54	独自訪糸法による高容量・長寿命の電気自動車向けリチウム電池用シリコン負極材料の研究開発	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
55	熱電素子を組み込んだ高効率SiCパワーモジュールの開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	B：事業化に成功
56	世界初の新超硬素材を使用した高剛性・長寿命・リサイクル可能なインベント電着工具の研究開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	B：事業化に成功
57	切離機能を有する世界初の内視鏡用軟性バグ・凝固鉗子の研究開発	F：研究実施中	E：実用化間近
58	小規模ごみ焼却発電技術を普及させる蒸気ロータリー発電エンジンの研究開発	E：実用化間近	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
59	マイクロバブル分散洗浄技術に基づくNOxや大気汚染物質除去のための平板多層膜モジュールの浄化技術の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	C：実用化に成功し事業化間近
60	世界初「夢の最先端素材カーボナースファイバー」による高強度・超軽量・再生産可能なプラスチック複合新材料の開発	E：実用化間近	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
61	患者及び執刀術者の負担軽減のための低侵襲治療手術器具等を実現する樹脂金属接合技術に応用した高機能異種金属接合技術の開発	F：研究実施中	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
62	脂質代謝研究素材として高脂質代謝機能と高利便性を備えるヒト肝細胞の開発	C：実用化に成功し事業化間近	B：事業化に成功
63	定年延長に繋がる健康管理のため、銀繊維を用いた心拍・筋電等を無線で取得し、取得したデータを元に個人ごとの健康管理・作業量負荷軽減を行うデバイス及びシステムの開発	E：実用化間近	C：実用化に成功し事業化間近
64	ITO代替透明導電膜のフレキシブル基板成膜プロセスの開発	F：研究実施中	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
65	産業用移動機械向けに低価格で実現する高精度マシン制御システムの開発	-	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
66	SOFC7ノードを再循環用次世代プロットの開発	-	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
67	半導体製造用CMPヘッドコンディショナーへのフェムトスケールめっき皮膜形成技術の開発	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている

68	新世代高速通信向け波長選択スイッチ用マトリクス型リレー実装技術の研究開発	B：事業化に成功	A：事業化に成功し継続的な取引が続いている
69	光干渉断層画像化法による塗装膜検査システムの開発	-	G：研究中止または停滞中
70	多チャンネル信号入出力と信号再現を可能とするマルチチャネルデータロガーの開発	-	G：研究中止または停滞中
71	インライン小径穴自動測定M2MシステムとIoT・AI品質評価一体システムの開発	F：研究実施中	E：実用化間近
72	配向性ファイバー足場で培養した神経細胞とこれを用いた薬の有効性と毒性を信頼性高く評価できる試験法の開発	F：研究実施中	B：事業化に成功
73	5G対応高周波用材料(ガラスセラミックス・テフロン等)への分子接合とメッキ技術を融合した高周波対応次世代メッキ技術の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	B：事業化に成功
74	超高画質(高精細・広色域)次世代表示装置を実現する為の新規合成技術による使用制限特定有害物質を含まない高特性新開発QD(量子ドット)蛍光体、及び、その量産化技術の研究開発	E：実用化間近	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
75	油圧機能内蔵金型による深絞りプレス成形技術の開発	D：実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	B：事業化に成功

(1) テストサイト用のサーバ手配

- ・テストサイトを構築するため、適切なスペックのサーバを手配しました。

(2) 確認用テストサイトの構築

- ・テストサイトを構築し、当業務内容のサイト改修、事例集（事例データ）の作成、掲載データ更新を反映しました。



(3) 中小企業庁における本番サイトへのデータ反映

- ・検証環境、本番環境への反映手順書を作成しました。
- ・(2)で実施した修正内容を抽出し、検証環境、本番環境へ反映しました。(2023年2月22日実施)

- ・ 別添のとおり、本システムの設計書、各種テスト実施計画書及び結果報告書、操作マニュアルを作成しました

- ①サポインマッチナビと同様の趣旨で運営しているビジネスマッチングサイト
 - ・官公庁関連、民間企業が運営しているサイトを調査し、サイト名、URL、概要、運営者等の情報を一覧化し報告しました。
- ②来年度以降別サイトへ統合するとなった場合に想定される作業
 - ・工程、および工程ごとに想定される作業内容を作成し、それを元に統合した場合の概算金額を積算し報告しました。
(ただし、統合先サイトおよび統合の方法により、工程や作業内容、概算金額は変動する見込み)
- ③本サイトを別サイトに統合することへのメリット・デメリット
 - ・別サイトと統合した際のメリット・デメリットを利用しやすさ、情報提供の効果、費用面、等の観点で分析し、報告しました。
- ④別サイトとの統合以外の方法で効果的な情報発信
 - ・現状サイトの課題ポイントを利用しやすさ、アクセス数増加、訴求力向上、等の観点で分析。
改善施策を作成し、報告しました。

＜現状の課題＞

- ・現在のGo-techナビでは詳細なアクセス解析を行うことができず、現状把握ができないことが大きな課題と考えられます。
どのような経路でサイトにアクセスされ、どのページが多く閲覧され、どのような導線でサイトを回遊されているか、等を分析できないと、有効な改善策を今後、見出すことが難しいと推測されます。
また、WEB広告等の広告戦略を実施する際の効果測定が困難です。

■考えられる課題解決策

①外部のサーバを利用する

- ・現在、使用している中小企業庁様のサーバでは外部と通信するサービスの利用が禁止されているため、アクセス解析サービスの利用が困難です。
新たに外部のクラウドサーバを利用し、移行することでアクセス解析サービスが導入でき、分析内容に基づいた改善を実施できるようになります。（業者からの提案も受けやすくなります。）
- ・クラウドサーバ利用料（保守含む）、SSL利用料等、ランニングコストがかかるため費用対効果及び今後の事業戦略と合わせて検討する必要があります。

②Googleアナリティクスの導入

- ・GoogleアナリティクスはGoogle社が提供している無料のサイトアクセス解析ツールです。
多くの官公庁・企業で使用されており、豊富な切り口で分析することができ簡単に導入することが可能です。
- ・各ページの閲覧数やユーザー層の分析、流入経路（検索エンジン、外部リンクからのアクセス等）などの詳しい情報を分析でき、事業の効果測定にも役立ちます。